

令和5年度の教育プログラム認定（学部）について

山形大学理事（教育担当）

出 口 毅

令和5年度の各学部等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全てのプログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和5年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各学部等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・カリキュラムチェックリストの作成により、各授業の達成度レベル等が可視化できている。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて、改善点や検討すべき点について各学部等において再度検討され、必要に応じて修正を加えた上で、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・今回で各学部等の教育プログラム検証作業は、養護教諭特別別科を除き7回目となるが、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントが確立されつつある。
- ・前回の各授業のDP及びCPとの対応関係や達成度レベルの指標、履修者数等のデータを基に今回のカリキュラムチェックリストの作業が進められており、適切な授業配置が行われている。

【会議での審議状況】

令和4年11月24日	統括教育ディレクター会議（協議）
令和4年12月21日	役員会（協議）
令和5年1月11日	教育研究評議会（報告）

令和5年度の教育プログラムの検証結果について						
学部	学科	コース	観点1	観点2	認定の可否	備考
人文社会科学部	人文社会科学科	人間文化コース	○	○	○	全般的に観点1、2のいずれについても、限られた人的リソースの中で、各コース共にバランスよく科目が配置されている。今後も継続的に科目配置等について検討していく必要がある。
		グローバル・スタディーズコース	○	○	○	
		総合法律コース	○	○	○	
		地域公共政策コース	○	○	○	
		経済・マネジメントコース	○	○	○	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	○	○	○	
		文化創生コース	○	○	○	一部の科目について、履修者数の入力漏れを修正した。
理学部	理学科		○	○	○	必修・選択科目のバランスについて見直しを行った結果、より体系的に学修できるカリキュラム編成になっている。 DP1、DP2、DP4について、授業科目「インターンシップ」が唯一の“A”科目（Assessed=測定/把握）になっているとの指摘については、今後の検討課題とする。
医学部	医学科		○	○	○	履修者数欄の表記において、BSL・CCについて注釈を追記した。
	看護学科		○	○	○	CPとDPの各項目と、カリキュラムチェックリスト内のCP1～14、DP1～11の対応関係を明確にした。
工学部	高分子・有機材料工学科		○	○	○	
	化学・バイオ工学科		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス学科		○	○	○	
	機械システム工学科		○	○	○	
	建築・デザイン学科		○	○	○	
	システム創成工学科		○	○	○	
農学部	食料生命環境学科	アグリサイエンスコース	○	○	○	基盤共通教育科目について、対象年次が明確になるよう区分表記を修正した。 CP1(2)の記載に重複する文言がある点について、学部内で確認の上、次年度以降に反映することとした。
		バイオサイエンスコース	○	○	○	DP1(2)に該当する科目の重要度（◎、○、△）を再確認し、当該DP達成のための核となる科目に記号◎を追加した。
		エコサイエンスコース	○	○	○	バイオサイエンスコースの基幹プログラム用科目において、DP3(6)に記号◎を新たに配置した。 履修者数の観点から、カリキュラムの見直しに合わせて、今後科目配置の更なる検討が必要である。
養護教諭特別科			○	○	○	文言を敬体から常体へ統一した。また、連続して不開講となっている一部の科目について来年度開講することとし、具体的内容を速やかに検討・確定することとした。

カリキュラムチェックリスト(人文社会科学部)

教育課程の編成・実施方針(CP)												学位授与方針(DP)											
CP1 文化資源と自文化の価値の理解を地域課題の解決につなげることのできる実践力を育成するため、課題解決型の実践教育科目を配置する。												DP1 事物や出来事を持つ文化的意味とその多元性を理解するとともに、地域や文化の異なる人々と意見交換しながら、現代社会の様々な課題を解決することができる。											
CP2 将来の展望と職業選択の準備が適切にできるように、キャリア関連の科目を必修化する。また、民間企業、地方自治体などのインターンシップを実施する。												DP2 社会の中で人文学を学ぶ意味を理解して、学ぶことの意義と自らの役割を考えながら、将来の展望と職業選択に必要な知識や能力を身につけている。											
CP3 高度な日本語能力を養成するために、専門科目の随所にレポート作成や発表・討論を取り入れる。英語の幅広い能力を獲得するため2年次以降も英語による授業や演習の科目を配置する。多様な言語の能力を養うために、初修外国語の履修を必修化する。												DP3 日本の文化・歴史や社会的課題に関する学術的な知見を、高度な日本語によって適切に説明するとともに、多様な言語で書かれた専門文献を的確に読み、日本語や外国語でコミュニケーションをとることができる。											
CP4 データの分析能力を修得するために、1年次の「情報処理」に加えて、社会調査法、統計学の基礎に関する授業科目を設定する。また、データ処理力を養成するための演習を必修化する。												DP4 情報機器を活用した情報収集や文書作成の能力に加えて、情報セキュリティを含む情報管理能力を身に付けた上で、文献資料、実地調査、実験等で得られたデータを分析し、効率的な情報発信や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。											
CP5 人間と文化について地域や分野を横断する視点から幅広い教養を身に付けさせるために、教養科目履修に領域指定を行う。また2年次以降に分野横断の学部共通科目群を配置する。さらに専門科目では隣接領域と連携した履修モデルを準備する。												DP5 地域や日本、近隣諸国などの様々な文化的背景を持つ人間とその活動を理解し、領域横断的な教養を身につけている。											
CP6 人文学の専門知を体系的に修得させるために、専門科目を導入・基礎・展開のレベル別に区分し、基礎科目と展開科目において講義と演習を配置する。あわせて、4年次に専門知の応用力を育成するために少人数による卒論演習を配置する。												DP6 人文学の専門領域について中核となる学術的成果を修得するとともに、自ら文化資源や問題を発見し、論理的・批判的思考の結果を意見としてまとめることができる。											

■授業科目表（人間文化コース）																												
授業科目	単位数	授業形態	開講学年	ナンバリング	令和3年度の履修者数	時間割コード	教育課程の編成・実施方針（CP）						授業の目的	到達目標	学位授与方針（DP）						授業担当		授業種別	開講形態	到達目標の明確性	チェック欄		
							CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	種別 （主・副・兼・非常勤・新採等）	氏名				授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか	
学部共通科目																												
キャリア・ガイダンス	2	講義	2	HCA2303	125	18001		◎				○	キャリア形成と職業選択 講師である各界で活躍する若手社会人（30歳代中心）の職業意識、その職業を選択した背景、今後のキャリアアップ構想を聞くことにより、受講者のキャリア形成のヒントとする。	職業をアクティヴに選択していく重要性を理解する。社会人のキャリアを聞くことにより自分のキャリアを考える契機とする。社会人とのコミュニケーション、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。		◎	I					非常勤講師	未定	選必		○	○	○
キャリア形成論	2	講義	2	HCA2201	38	18002		◎				○	自身のキャリアを形成することの意味を考え、職業意識を涵養する。	多様な職業を知り、働く意味や自分の将来についてイメージできるようにする。		◎	R					非常勤講師	未定	選必		○	○	○
キャリア形成論演習	2	演習	2	HCA3304	28	18003		◎				○	キャリアプランとライフプランの作成 自分について振り返る作業と、社会や職業について理解する作業を軸として、自分にとってのキャリア（仕事、人生）について考える。	個人作業とグループ演習を通して、自分についての理解を広げ深める。グループ演習を通して自分とは異なる価値観に目を向け、他者や社会への理解を深める。課題や授業のテーマへの取り組みを通して、自分の考えをまとめて表現する。		◎	R					非常勤講師	未定	選必		○	○	○
インターンシップ	2	実験・実習	2	HCA3305	0	18004	○	◎					就業体験を通じた自己認識と社会への適応 自治体・企業・NPO等における研修を通じて、学習意欲と就職に対する意識を喚起し、実社会において必要とされる高い職業意識や自立心と責任感を育成する。大学で学んだ知識と能力を応用して実践する能力を育成する。	研修先での就業体験を通じ、コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会についての認識や自分自身の適性についての理解を深める。	OR	◎	M				主	学部進路指導委員会	選科		○	○	○	
地域社会論	2	講義	2	HCA3307	154	18005	◎	○					専門科目の履修に当り、学問が立脚している社会の現状と諸課題について、産業、公共、生活文化の三分野において地域社会で活躍している人々を講師として招き、実際に生起している課題や取り組みを聞くことにより、理解を深めることを目的とする。	産業、公共、生活文化の三分野それぞれにおける地域社会の現状を説明できる。それぞれの分野における現在の課題を定式化できる。それぞれの分野において現在どのような取り組みがなされているかを発表し説明できる。	◎	R	OR				主	安田均	選必		○	○	○	

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。
◎ DP達成のために、特に重要な事項
○ DP達成のために、重要な事項
△ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。
I Introduced＝導入
R Reinforced/Practiced＝発展/強化
M Mastered＝熟達
A Assessed＝測定/把握

<理学部>

「その他（自由記述）」

DP1、DP、DP4については、卒論研究(必修)では“A”に該当せず、理学共通科目の「インターンシップ」が唯一の“A”科目になっているが、「インターンシップ」科目は選科のため履修者数が少ない。必要に応じて、今後、“A”が付与できる他の科目や科目の追加を検討いただきたい。

【参考】

ディプロマポリシー（DP）

1. 豊かな人間性と社会性

DP1 良識ある市民として高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。

DP2 地域社会や国際社会で貢献する意欲をもち、他者の多様性を尊重して、異なる文化や考え方をもつ人々と協働できる。

2. 幅広い教養と汎用的技能

DP3 数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学など、幅広い理学の教養と基礎知識を身に付けている。

DP4 人文科学や社会科学における基本的な知識を身に付けている。

DP5 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付けている。

DP6 幅広い教養に基づき、社会課題の解決や教育・科学の普及などを通じて、他者と協働しながら社会貢献に取り組める論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けている。

3. 専門分野の知識と技能

DP7 幅広い理学の基礎学力を身に付けている。

DP8 選択したコースカリキュラムを中心とした理学の専門的知識を身に付け、その分野の先端的な研究内容を理解し、説明できる能力を身に付けている。

DP9 専門的な素養を基盤に科学的思考方法に従って、社会が要請する課題を解決する能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 教育課程の編成・実施等

CP1 社会生活における広い視野・コミュニケーション能力・健全な批判精神等の醸成、並びに高等学校教育との接続に留意した理学分野の基礎的教育を基盤共通教育において行う。

CP2 専門分野の知識を修得させるため、講義科目、実験科目、演習科目などを適切に組合せた基盤専門教育のカリキュラムを国際標準に準拠して体系的に編成する。また、課題の解決能力と研究基礎力の向上を図るため卒業研究を配置し、専門分野の最先端にも触れさせる。

CP3 専門分野以外の学問領域や国際交流、地域社会との連携にも関心がもて、幅広い理学の学際的知識が身に付く科目を配置する。

CP4 理学を含む幅広い知識を有し、地域社会や世界が抱える問題の解決に貢献できる実践力を備えた社会人を育成するため、柔軟な発想力と独創性を養成する科目を配置する。

CP5 教育や科学の普及、学術振興に寄与できる職業を目指す学生を対象とし科学の専門的内容とその社会的意義を人々に分かりやすく伝える能力を養成する科目を配置する。

CP6 科学技術の高度な専門的知識・技能を備えた職業人を目指す学生を対象とした大学院接続プログラムを設け、より高度で実践的な理学の専門知識と研究遂行能力を養成する。

<農学部>

「その他（自由記述）」

- ・ CP1(2)の文章について、同じ文言が3回あり冗長に感じた。
- ・ DP1(2)に関して、△の科目はあるが、◎や○の科目がないため、当該 DP 達成のための核となるような科目がないか、検討いただきたい。
- ・ (バイオサイエンスコース) No. 79 - 84の基幹プログラム用科目で、DP3 (6)に◎などが一つもないため、確認いただきたい。

【参考】

ディプロマポリシー (DP)

DP1. 豊かな人間性と社会性

- (1)人類の叡智と多様性に関心を持ち、洞察力をもって主体的、自律的に学び続けることができる。
- (2)健全な批判精神を持つ良識ある市民としての倫理観と責任感を持っている。
- (3)変化する社会の諸問題に他者と協働的に挑戦し、地域から世界へ羽ばたく勇気がある。

DP2. 幅広い教養と汎用的技能

- (1)自分がどのような社会状況の中で生きているかを認識し、それをもとに判断し、行動できる。
- (2)現代社会を生き抜くための基本技能として、論理的思考力とチームワーク力及び膨大な情報の取捨選択力を身につけ、社会生活に活用できる。
- (3)他者の多様な価値観を理解し、自らの考えを論理的に説明することにより、相互理解を促進するコミュニケーション能力がある。

DP3. 専門分野の知識と技能

- (1)食料、生命、環境科学について総合的な判断力とバランス感覚を身につけている。
- (2)食料、生命、環境科学について強い好奇心と探求心を身につけている。
- (3)選択したコースの専門的な知識、技術、情報処理方法、語学力を身につけている。
- (4)基礎科学と基礎技術に関する知識を多角的に使うことができ、多面的に応用できる技能を身につけている。
- (5)研究実行力、科学的思考力、問題解決力を身につけている。
- (6)「基幹プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、選択したコースにおけるより高度な専門知識や技術を身につけている。
- (7)「国際展開プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、グローバル化の進む日本社会の課題を解決するための国際的感覚や語学力を身につけている。
- (8)「地域創生プログラム」の履修者は、上記(1)～(5)に加えて、地域の活性化とその好循環の維持を実現するための地域社会をマネジメントする能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー (CP)

CP1. 教育課程の編成・実施等

- (1)学士課程基盤教育においては、豊かな人間力と社会力を醸成する基盤教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する基盤専門科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2)食料、生命、環境科学について総合的で幅広い知識を持つため、基盤専門科目において、コース配属前の学生に対し、専門基礎導入科目を開講し、幅広い分野の教育を展開する。コース配属後も、幅広い分野の教育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。

- (3)強い好奇心と探求心、諸課題への高い見識と展望を持って自ら解決する能力と、総合的な判断力を有した学生を育てるため、講義科目と実験・実習、演習科目とを効果的に配置し、併せて、学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、キャリア科目及び、学外・海外での実習科目を開講する。
- (4)各コースにおいて定める専門的知識と能力が身につくよう、各コースに専門科目を配置する。
- (5)学部・学科を超えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を選択するため、各授業科目で修得される知識・能力等を明確化したシラバスを作成する。
- (6)各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ上に、専門分野のより高度な知識の習得を目指す「基幹プログラム」を配置する他、それらの理論や技術を活かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、及び、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」も配置する。

CP2. 教育方法

- (1)生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく初年次教育を展開する。また、必要に応じて、基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2)自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を拡充する。

CP3. 教育評価

- (1)学習者が到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、不断の教育課程の点検と学生の学習成果を組織的に評価する。
- (2)良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

令和5年度の教育プログラム認定（大学院理工学研究科・
博士後期課程（先進工学専攻））について

理事（教育担当）

出口 毅

令和5年度の大学院理工学研究科・博士後期課程（先進工学専攻）の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和5年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各研究科等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・大学院理工学研究科・博士後期課程（先進工学専攻）の教育プログラム検証作業については、改組のため今回で1回目の実施となるが、スムーズに作業を進めることができた。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて改善点や検討すべき点を各研究科等において再度検討される等、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。

【会議での審議状況】

令和4年11月24日	大学院統括教育ディレクター会議（協議）
令和4年12月21日	役員会（協議）
令和5年1月11日	教育研究評議会（報告）

令和5年度の教育プログラムの検証結果について

【博士後期課程】

研究科	専攻	観点1	観点2	認定の可否	備考
理工学研究科	先進工学専攻	○	○	○	検証予備作業による指摘に従い、CP 6及びDP4が全ての科目に対象となるように修正することで、DP、CPに沿ったカリキュラム編成となっていることを確認した。

教育課程の編成・実施方針（CP）

1. 高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目を編成する。
2. 論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力、仮説を検証する能力、習得した知識や技能を自在に應用して新たな知見を生み出す能力及び科学者・技術者を巻き込んで研究やプロジェクトを推進する能力を身に付けるために演習科目及び実験科目を編成する。
3. 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
4. 演習科目及び実験科目では、必要に応じて複数の教員が指導に当たり、専門的な知識を実践的に体得させる。
5. 研究の計画の立案及び実施に当たっては、複数の指導教員及びメンターが定期的に指導及び助言を行う。
6. 成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
7. 博士後期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

学位授与方針（DP）

1. 専門とする工学分野の科学・技術に関する深い知識と技能を身に付けている。
2. 科学・技術を発展させる上で必要な論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力を身に付けている。
3. 社会や科学・技術に関する課題を深く理解し、これを解決するための仮説を検証する能力を身に付けている。
4. 専門とは異なる分野の科学・技術に関する知識を身に付けている。
5. 習得した知識や技能を自在に應用して新たな知見を生み出す能力を身に付けている。
6. 俯瞰的な視野に立って情報を収集し、計画を立案、実施する能力を身に付けている。
7. 世界に向けて自らが発見した科学的知見や創生した技術を発信する能力を身に付けている。

科目区分	NO	授業科目名	単位数	令和2年度 履修者数	令和3年度 履修者数	時間割 コード	授業 形態	開講 学年	教育課程の編成・ 実施方針（CP）							授業の目的	授業の到達目標	学位授与方針（DP）						
									CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
基盤科目	1	先進工学基礎	1				講義	通	○	○		○	◎	○		先進工学を専門とする研究者として活躍するために必須の基礎知識を学ぶことを目的とする。	先進工学を専門とする研究者として身に付けなければならない基礎知識を身につけ、必要に応じてそれを応用することができる。	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I
化学・ バイオ工 学分野講 義科目	2	無機材料工学特論	2				講義	1	◎					○		高実社会で利用されている機能性無機材料や今後活躍が期待される生命無機化学に関する理解を深めることを目的とする。	機能性無機材料の機能発現のメカニズムや生命活動に不可欠な生体物質の生命化学的役割等について、理論に基づき議論することができる。	◎ M	◎ I		○ I			
	3	化学計測・生体情報特論	2				講義	1	◎					○		物質を有効活用する観点に基づき物質や生体が有する情報を取得し、それを解析する方法を学ぶことを目的とする。	物質の分離とそのための分析機器、生体情報の計測とその解析技術、ソフトウェア・AD変換などのラインモニタリング技術を深く理解し、必要に応じてそれらを活用できる。	◎ M	◎ I		○ I			
	4	化学工学特論	2				講義	1	○	◎				○		産業分野で重要な分離プロセス、機械操作、材料プロセス、伝熱工学に関する知識を得ることを目的とする。	分離プロセスにおける式モデルから分離技術を解釈することができる。また、粉粒体の諸特性と製造工程(装置、条件など)とを関連付け、熱力学的基礎に基づき数値的に計算できる。熱媒流体を利用した新たな伝熱促進技術の原理を、伝熱促進技術の基礎に基づき説明できる。	◎ M			○ I	◎ R		
	5	応用物理化学特論	2				講義	1	◎					○		界面・表面現象や光イメージングといった物理化学的な現象の工学分野における役割を学ぶことを目的とする。	界面での現象やエネルギーデバイスにおける界面設計、粉体表面の物性およびその測定法、さらに様々な表面処理方法について深い知識を身につけ、必要に応じてそれらを活用できる。	◎ M	○ I		○ I			
	6	有機機能工学特論	2				講義	1	○					○	○	有機分子設計化学、機能分子化学、ナノ結晶・ナノ粒子、遷移金属触媒反応を取り上げ、種々の機能性有機材料の概説と、機能の発現機構、分子構造と機能制御の関係について論じ、それぞれの解析法、新規な有機材料の分子デザインおよびその合成戦略について解説・議論する。	種々の機能性有機材料の機能、構造解析、分子設計、合成法などに関する深い知識を身につけ、必要に応じてそれらを活用することができる。ケミカルテクノロジー、ナノテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I
	7	生体有機分子工学特論	2				講義	1	○		○		○	○		創薬や遺伝子・タンパク質研究に重要な天然物やペプチドの合成、タンパク質の化学的、生物学的な合成、有機化合物と酵素・受容体などのタンパク質との相互作用について概説し、分子設計、評価方法、構造活性相関など生物機能工学の基礎を理解し、それらを用いた最新技術に対する理解を深める。	生体機能物質化学、創薬有機化学、タンパク質工学、遺伝子工学、有機合成化学に関する基礎となる専門知識について述べる事が出来、研究の最新の知見について討議することができる。バイオテクノロジー、ケミカルテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I
	8	バイオ工学特論	2				講義	1	○				○	○		発生・生殖生物学及び細胞生理学を中心とした生命科学の研究分野に関連する重要な生物現象を取り上げ、これら生物現象を解析するための先端計測技術とその応用例を解説する。工学と生命科学の異分野融合研究の意義と重要性を理解する。	各種組織を構成する細胞の特徴を、機能と構造面から説明できる。個体を構成する組織など細胞のつくる社会に関して、細胞・分子レベルで理解することができる。先端計測技術などの工学と生命科学との融合の社会貢献に関して理解を深める。	○ I	○ R	○ R	○ R		○ R	○ I
	9	医工学特論	2				講義	1	○				○	○		高度医療において、人工物を生体内に埋入する材料(生体材料)の臨床応用は年々増している。本講義では、高度臨床医療で用いられている生体材料を中心に学ぶ。生体材料の設計指針及び開発状況を基礎から応用に至るまでを学ぶとともに、最新の話題を取り上げ、工学から医学へのアプローチ方法を考える。	1.生体材料の種類を挙げて説明できる。2.材料の適用症例の概略が理解できる。3.生体内での材料の使用方法を説明できる。4.医療機器の構成と使用材料を説明できる。	○ R		○ M	○ I			○ R

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。

- ◎ DP達成のために、特に重要な事項
- DP達成のために、重要な事項
- △ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。

- I Introduced = 導入
- R Reinforced/Practiced = 発展/強化
- M Mastered = 熟達
- A Assessed = 測定/把握

指摘事項（観点1）

- ・成績評価基準に基づいた厳格な評価を求めている CP6 は全ての科目が対象となります。空欄の科目については再検討を行うようにお願いします。
- ・DP4 はすべての専門科目が対象となります。他分野の科目を履修した場合は全て該当するためです。

【参考】

カリキュラムポリシー（CP）

- 1.高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目を編成する。
- 2.論理的な思考力・記述力，発表・討議の能力，仮説を検証する能力，習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力及び科学者・技術者を巻き込んで研究やプロジェクトを推進する能力を身に付けるために演習科目及び実験科目を編成する。
- 3.講義科目においては，適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ，知識のより深い理解を促す。
- 4.演習科目及び実験科目では，必要に応じて複数の教員が指導に当たり，専門的な知識を実践的に体得させる。
- 5.研究の計画の立案及び実施に当たっては，複数の指導教員及びメンターが定期的に指導及び助言を行う。
- 6.成績評価基準に基づき，厳格な評価を行う。
- 7.博士後期課程の学位基準に基づき，学位論文を評価する。

ディプロマポリシー（DP）

- 1.専門とする工学分野の科学・技術に関する深い知識と技能を身に付けている。
- 2.科学・技術を発展させる上で必要な論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力を身に付けている。
- 3.社会や科学・技術に関する課題を深く理解し、これを解決するための仮説を検証する能力を身に付けている。
- 4.専門とは異なる分野の科学・技術に関する知識を身に付けている。
- 5.習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力を身に付けている。
- 6.俯瞰的な視野に立って情報を収集し，計画を立案，実施する能力を身に付けている。
- 7.世界に向けて自らが発見した科学的知見や創生した技術を発信する能力を身に付けている。

令和5年度の教育プログラム認定（大学院）について

理事（教育担当）

出 口 毅

令和5年度の大学院各研究科等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和5年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各研究科等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・研究科等の教育プログラム検証作業については、今回で3回目の実施となるが、スムーズに作業を進めることができた。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて改善点や検討すべき点を各研究科等において再度検討される等、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。

【会議での審議状況】

令和4年 9月15日及び9月20日	大学院統括教育ディレクター会議（協議）
令和4年 9月28日	役員会（協議）
令和4年10月 5日	教育研究評議会（報告）

令和5年度の教育プログラムの検証結果について

【修士課程・博士前期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	備考
社会文化創造研究科	社会文化創造専攻	社会文化システムコース	○	○	○	
		臨床心理学コース	○	○	○	
		芸術・スポーツ科学コース	○	○	○	
理工学研究科	理学専攻		○	○	○	
	化学・バイオ工学専攻		○	○	○	・化学・バイオ工学特別実験AがCP4に該当している ので、○を追記した。 ・CP5は厳格な成績評価に関する項目であることから、記 入のないすべての科目に○を追記した。 ・CP6は学位審査に関する内容なので、一般の講義科目の ○を削除した。
	情報・エレクトロニクス専攻		○	○	○	CP5は厳格な成績評価に関する項目であることから、記入 のないすべての科目に○を追記した。
	機械システム工学専攻		○	○	○	CP5は厳格な成績評価に関する項目であることから、記入 のないすべての科目に○を追記した。
	建築・デザイン・マネジメント専攻		○	○	○	
農学研究科	農学専攻		○	○	○	おおむね農学研究科のDPやCPに適したカリキュラムの編 成になっている。ただ、ご指摘がありました生物環境学領 域の科目「森林雪氷学専門演習」については、授業の目的 欄において、説明文を追記した。

有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	博士前期課程CP3が厳格な成績評価に関する項目で原則すべての科目が該当するとの指摘について指摘の通り修正を行った。
医学系研究科	先進的医科学専攻		○	○	○	自由記述欄にあった事項については、令和6年度のカリキュラム作成時や同チェックリスト作成時に対応する予定。
	看護学専攻		○	○	○	自由記述欄にあった事項については、令和6年度のカリキュラム作成時や同チェックリスト作成時に対応する予定。
教育実践研究科	教職実践専攻		○	○	○	

【博士課程・博士後期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	備考
理工学研究科	地球共生圏科学専攻		○	○	○	「凝縮系化学特論」のDP2について達成度レベルが提示されていないとの指摘があり、修正（加筆）を行った。
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	
医学系研究科	医学専攻		○	○	○	
	先進的医科学専攻		○	○	○	自由記述欄にあった事項については、令和6年度のカリキュラム作成時や同チェックリスト作成時に対応する予定。
	看護学専攻		○	○	○	自由記述欄にあった事項については、令和6年度のカリキュラム作成時や同チェックリスト作成時に対応する予定。

指摘事項（観点1）

- ・CP4)には「化学・バイオ工学特別実験 A」も該当するのではないか
- ・CP5)は厳格な成績評価に関する項目ですので、原則すべての科目が該当するものと思われる。
- ・CP6)は学位審査に関する内容ですので、一般の講義科目は指定する必要はありません。修士論文研究に関する演習・実験科目のみを指定するのが妥当と思われる。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）**

- 1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基盤教育科目及び基礎専門科目と、化学・バイオ工学専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。
- 2) 論理的な思考力と記述力、日本語及び英語での発表と討議の能力、習得した化学・バイオ工学分野の知識と技能を使いこなす、さらに、発展させる能力を身に付けるため、演習科目及び実験科目を設ける。
- 3) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- 4) 演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、化学・バイオ工学分野の専門的な知識や実験技術および操作方法を実践的に体得させる。
- 5) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- 6) 博士前期課程の学位規程に基づき、評価する。

ディプロマポリシー（DP）

- 1) 豊かな人間力
 - ①研究者、技術者としての倫理観に基づき、人類の幸福と福祉という地球的規模の広い観点から化学・バイオ工学分野の役割を考え、社会に対する責任感を自覚している。
 - ②Sustainable Society 5.0 社会実現のため、異分野連携を推進しながら、地域の自然と文化の調和のとれた化学・バイオ工学を基盤とする地域産業の創成を推進できる能力を身に付けている。
- 2) 深化した専門知識・技能と文理兼修による幅広い視野
 - ①化学及び生物学の基礎知識並びに化学又は生物学の深化した専門知識を身に付けているのに加えて、関連する学問分野に応用する能力を身に付けている。
 - ②Sustainable Society 5.0 社会を目指す上で必要となる、新たなアイデアを創造しそれを実現する企画コミュニケーション能力を持ち、グローバルな問題解決や人類の福祉増進へ導く思考が出来る。
- 3) 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力
 - ①グローバルな視野に基づいて化学・バイオ工学分野の情報を収集し、多文化が共生する社会の創成に貢献する能力を身に付けている。
 - ②自らが発見した科学的知見やエネルギー問題、食糧問題、及び環境問題 Sustainable Society 5.0 社会を実現する革新的な技術を世界に向け発信する能力を身に付けている。

指摘事項（観点1）

・CP5)は厳格な成績評価に関する項目ですので、原則すべての科目が該当するものと思われる。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）**

- 1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基礎教育科目及び基礎専門科目と、専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。
- 2) 論理的な思考力と記述力、発表と討議の能力、習得した知識と技能を自在に応用できる能力と、自らが発見した科学的知見や革新的な技術を発信する能力を身に付けるため、演習科目及び実験科目を設ける。
- 3) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- 4) 演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、専門的な知識や技能を実践的に体得させる。
- 5) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- 6) 博士前期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

ディプロマポリシー（DP）

- 1) 豊かな人間力
 - ①高い倫理性を持ちグローバルな視点で、様々な課題を把握できる能力を身に付けている。
 - ②地域の課題を、複眼的かつ細やかな視点で捉え、技術的な視点から解決策を提案し、地域活性に貢献し得る能力を身に付けている。
- 2) 深化した専門知識・技能と文理兼修による幅広い視野
 - ①情報科学及び電気電子工学に関する深い専門知識を修得し、先端的科学技術分野に応用できる能力を身に付けている。
 - ②調和のとれた総合的な判断力と、論理的思考力、構想力、発表・討論力や情報収集の能力を身に付け、産業界や社会のリーダーとなり得る能力を身に付けている。
- 3) 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力
 - ①様々な文化的特徴を有する人々が多様性を尊重しながら共存する多文化社会において、課題解決や新しい提案ができる能力を身に付けている。
 - ②異分野の人たちと国際的に情報交換や情報発信を行い、持続的に研究開発を発展させる能力を身に付けている。

指摘事項（観点1）

- ・CP5)は厳格な成績評価に関する項目ですので、原則すべての科目が該当するものと思われる。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）**

CP1 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基礎教育科目および基礎専門科目と、機械システム工学専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技術の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。

CP2 論理的な思考力と記述力、発表と討議の能力、習得した知識と技術を自在に応用できる能力と、自ら開拓した科学的知見や先端技術を発信する能力を身につけるため、演習科目および実験科目を設ける。

CP3 講義科目においては、適宜演習、プレゼンテーション、グループディスカッションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。

CP4 演習科目および実験科目では、複数の教員が指導に当たり、専門的な知識や技術を実践的に体得させる。

CP5 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。

CP6 博士前期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

ディプロマポリシー（DP）

DP1 俯瞰的・多面的視野から社会の課題を把握する能力を身につけている。

DP2 社会の変化に対応して、人や地域を尊重しながら、課題解決を推進できる能力を身につけている。

DP3 専門とする機械システム工学分野に関する深い知識に加えて、幅広い科学技術に関する知識を身に付けている。

DP4 科学技術を発展させる上で必要な論理的な思考力と記述力、発表と討議の能力、習得した知識と技術を自在に応用できる能力を身に付けている。

DP5 グローバルな視野に基づいて情報を収集し、機械システム工学及び科学技術に基づいて多様な文化が共生する社会の創成に貢献する能力を身につけている。

DP6 国際性を兼ね備え、自ら得た科学的知見を発信する能力を身につけている。

その他（自由記述）

CP4 に関しまして、「森林雪氷学特論」等のいくつかの講義型授業に○印がついていますが、「他分野の学生との共同作業や討論会」がそこでどのように行われているのかが分からない。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）****1）教育課程の編成・実施等**

CP1 高度な専門職従事者としての知識と技能を身につけるため、体系的に構成されたカリキュラムを編成する。

CP2 多様で学際的な知識と技能を身につけるため、文理兼修を含む幅広い分野の科目を履修できるカリキュラムを編成する。

2）教育方法

CP3 自ら課題を発見し、その解決に向けて探求した成果を表現する能力を身につけさせるため、授業への学生の主体的な参加を促す。

CP4 他分野の学生との共同作業や討論会を推進する。

CP5 修士論文研究では、複数教員による対面型個別指導制を導入し、研究の内容・結果・解析法等を確認・指導する。

3）教育評価

CP6 不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定した上で、その基準にもとづく評価を行う。

CP7 修士（農学）の学位基準にもとづき、学位論文を評価する。

ディプロマポリシー（DP）**1）豊かな人間力**

DP1 食料・生命・環境科学に強い関心を持ち、主体的・自律的に学習を継続できる。

DP2 専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を身につけている。

2）深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

DP3 各自の専門分野における高度な知識や技術を身につけている。

DP4 文理を超えた様々な分野の専門的知識を理解し、多様化・複雑化した社会の要請に応じてそれを活用できる能力を有している。

3）多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

DP5 国際社会や地域社会における専門分野に関わる課題を抽出・探求でき、その解決ために研究・開発する行動力を有している。

DP6 他分野との共同作業ができ、創造的な事業に従事するための実践的な能力を有している。

指摘事項（観点1）

- ・CP3)は厳格な成績評価に関する項目ですので、原則すべての科目が該当するものと思われる。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）****1）教育課程の編成・実施等**

（1）豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基礎教育科目および基礎専門科目と、有機材料システム専攻領域の基礎から先端分野にわたる専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。

（2）論理的思考力、考え抜く力、記述力、プレゼンテーション力、それらを活用できる能力に加え、国際的に通用する教養と実践力を養成するためグローバル実践科目、演習科目および実験科目を設ける。

2）教育方法

（1）講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。

（2）グローバル実践科目、演習科目および実験科目では、複数の教員が指導に当たり、専門的な知識や技能を実践的に体得させる。

3）教育評価

（1）成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。

（2）博士前期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

ディプロマポリシー（DP）**1）豊かな人間力**

（1）研究者・技術者としての高い倫理観を持ち、他者や社会との関わりを尊重しつつ、多様な価値観を理解し、自己研鑽に取り組む力を身につけている。

（2）常に変化する国際情勢の中で、社会問題を発見するとともに、それらの解決法を提案でき、社会実装と地域創生に資する行動力と実践力を身につけている。

2）深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

（1）有機材料システムに関する幅広く深い知識と技能に加え、俯瞰的・複眼的視座を持つことで、異分野の学問に関する知識を身に付け、さらにそれらを活用することで、新たな付加価値をもつ材料やシステムを創成し、持続可能な次世代社会の構築をけん引するためのリーダーシップを発揮できる。

（2）論理的思考力、考え抜く力、記述力、プレゼンテーション力、および建設的な批判精神を持ち、課題発見・解決のため、それらの能力を機動的に活用できる。

3）多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

（1）グローバルな視野に基づいて情報を収集し、多文化が共生する社会の創成に貢献する態度と能力を身につけている。

（2）有機材料における世界最先端の研究拠点を軸足とし、国際的な人的もしくは組織的ネットワークを活用することで、国際的に通用する教養と実践力を身につけている。

その他（自由記述）

DP1 および DP2 において、“A”が付与されている科目が見受けられなかった。該当する科目がありましたら記号付与をご検討いただきたい。もしくは今後のカリキュラム見直しの際に、科目の追加や既存科目の内容の見直しをご検討いただきたい。

【参考】

カリキュラムポリシー（CP）

1. トランスレーショナルリサーチを推進できる知識と技能を体得するための総合的なカリキュラムを編成する。
2. 先進的な医学研究を担う人材として育成するために、様々な分野が連携して創意あふれる教育を展開する。
3. 国際的な競争力や多面的な研究開発戦略を構想・推進できるようになるために、適切な助言・研究指導を行う。
4. 学生の出身分野に応じて、医学系の基礎的な学力の定着に重点をおいた教育を行いつつ、それぞれのコースで先進的役割を担える人材として育成する。
5. 自らの研究に対し、能動的な課題発見・解決能力を培うため、双方向の講義や適切な研究指導を行う。
6. 知の総合的推進力や豊かな人間力を涵養する授業等を適切に組み合わせ、成績評価基準に基づき厳格な評価を行います。
7. 医科学やトランスレーショナルリサーチに対する知識と技能、さらには主体的・自律的に学問に取り組む姿勢を評価する。

ディプロマポリシー（DP）

1. トランスレーショナルリサーチをはじめとした最先端の深い知識を習得し研究能力を身に付けている。
2. 研究者として高度な生命倫理観を有している。
3. 医科学の基礎的な幅広い知識を身に付けた上で、自らの研究への想像力、応用力、実行力を有している。
4. 高齢者社会の進展に伴う医療上の諸課題の解決を図る能力を獲得している。
5. 豊かな人間力と幅広い視野をもち、多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力を有している。
6. 研究結果を学会や学術論文で発表することができる総合的な能力を獲得している。

その他（自由記述）

DP6 および DP7 において、“A”が付与されている科目が見受けられなかった。該当する科目がありましたら記号付与をご検討いただきたい。もしくは今後のカリキュラム見直しの際に、科目の追加や既存科目の内容の見直しをご検討いただきたい。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）****1 教育課程の編成・実施等**

(CP1) (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし、看護の研究を推進できる能力を育成するために、各教育・研究分野において特論・演習・特別看護研究と順序性をもって体系的に教育課程を編成する。

(CP2) (2) 幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身につけるために、専攻領域の履修に加え、他領域の特論履修を定め、自由に選択できるカリキュラムを編成する。

2 教育方法

(CP3) (1) 看護高度専門職業人としての豊かな学識と高い見識を獲得するために、多面的で実践的な教育を展開する。

(CP4) (2) 学位にふさわしい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた修士の学位論文を作成できるための適切な助言・研究指導を行う。

3 教育評価

(CP5) (1) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、厳格な評価を行う。

(CP6) (2) 論文審査では、論理的思考・説明能力の育成を考慮し、論文審査基準を公表し、審査については公開制で実施する。

ディプロマポリシー（DP）**1 豊かな人間力**

(DP1) (1) 看護高度専門職業人として基本的人権擁護と高い倫理意識を有している。

(DP2) (2) 豊かな学識と高い見識を備え、基礎理論に基づく疾病予防と生活支援方法を開発・整備できる能力を身に付けている。

2 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

(DP3) (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし解決するために、看護の研究を推進できる能力を獲得している。

(DP4) (2) 現代社会が直面する看護・介護に関する諸課題についての教育・研究・実践活動を自律して展開できる能力を獲得している。

(DP5) (3) 自身が取り組むべき課題を基に、新たな研究領域にも挑戦できる能力を身に付けている。

3 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

(DP6) (1) 多様なサービス提供の場であって、国内外を問わず学際的チームの協働・連携に寄与できる。

(DP7) (2) 幅広い視野をもち、多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力を有している。

その他（自由記述）

一部の授業科目の学位授与方針（DP）に、達成度レベル（I, R, M, A）の提示がなかった（凝縮系科学特論、DP2）。達成度レベルの提示をご検討いただきたい。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）**

CP1 主専門分野に関連した先端的研究における高度な理論、実験法、技術等の修得を目的に、自らが策定した研究計画に従い特別演習と特別実験を行う。

CP2 地球共生圏科学に対する視野を広め、問題提起・解決能力を養うため、主専門分野以外の領域の研究開発に携わる実習科目を行う。

CP3 高度職業人としての資質を向上させるため、共同作業における指導力を養うことを目的とした実習科目を行う。

CP4 専門分野における深化した知識の修得を目的に、各専門分野において体系的な講義と演習科目を行う。

ディプロマポリシー（DP）

DP1 先端的研究の発展に貢献しようとする意欲を持ち、独自の課題を発見し、解決するための高度な専門的知識と経験を体系的に修得している。

DP2 研究成果を得るために必要な手法を自ら組み立てながら研究を遂行していく能力を身に付けている。

DP3 高度な専門職従事者として十分自立して活動できる能力を身に付けている。

DP4 学会活動や共同研究において主体的に関われる能力を身に付けている。

DP5 研究成果を公表するためのプレゼンテーションやディスカッションについての高度なコミュニケーション能力を身に付けている。

その他（自由記述）

DP2 および DP3 において、“A”が付与されている科目が見受けられなかった。該当する科目がありましたら記号付与をご検討いただきたい。もしくは今後のカリキュラム見直しの際に、科目の追加や既存科目の内容の見直しをご検討いただきたい。

【参考】

カリキュラムポリシー（CP）

1. トランスレーショナルリサーチを推進できる知識と技能を体得するための高度で専門的なカリキュラムを編成する。
2. 先進的で卓越した医学研究を担う人材として育成するために、様々な分野が連携して創意あふれる教育を展開する。
3. 国際的な競争力や多面的な研究開発戦略を主導的な立場で構想・推進できるようになるために、適切な助言・研究指導を行う。
4. 学生の出身分野に応じて、医学系の基礎的な学力の定着に加え、さらに深化した教育を行いつつ、それぞれのコースで先進的・指導的役割を担える人材として育成する。
5. 自らの研究に対し、能動的な課題発見・自律的な解決能力を培うため、双方向の講義や高度で適切な研究指導を行う。
6. それぞれのコースの目指す教育内容に照らし合わせて策定した成績評価基準に基づいて、到達度が明確になるような方法で評価を行う。
7. 医科学やトランスレーショナルリサーチに対する知識と技能、さらには主体的・自律的・実践的に学問に取り組む姿勢を評価する。

ディプロマポリシー（DP）

1. トランスレーショナルリサーチをはじめとした最先端のより高度な知識を習得し研究能力を身に付けている。
2. 研究者又は指導者として卓越した生命倫理観を有している。
3. 医科学の高度で専門的な知識を身につけた上で、自らの研究への想像力、応用力、実行力を有し、チームとして展開できる。
4. 高齢者社会の進展に伴う医療上の諸課題の解決を図る実践的な能力を獲得している。
5. 広い視野から研究の立案・遂行・統括することができ、リーダー的な立場で寄与することができる。
6. 高度で最先端の研究結果を学会や学術論文で発表することができる総合的な能力を獲得している。

その他（自由記述）

DP2 および DP3 において、“A”が付与されている科目が見受けられなかった。該当する科目がありましたら記号付与をご検討いただきたい。もしくは今後のカリキュラム見直しの際に、科目の追加や既存科目の内容の見直しをご検討いただきたい。

【参考】**カリキュラムポリシー（CP）****1 教育課程の編成・実施等**

(CP1) (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし、看護の研究を推進できる能力を育成するために、各教育・研究分野において特論・演習・特別看護研究と順序性をもって体系的に教育課程を編成する。

(CP2) (2) 幅広い知識と広い視野を備えた総合力を身につけるために、専攻領域の履修に加え、他領域の特論履修を定め、自由に選択できるカリキュラムを編成する。

2 教育方法

(CP3) (1) 看護高度専門職業人としての豊かな学識と高い見識を獲得するために、多面的で実践的な教育を展開する。

(CP4) (2) 学位にふさわしい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた修士の学位論文を作成できるための適切な助言・研究指導を行う。

3 教育評価

(CP5) (1) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、厳格な評価を行う。

(CP6) (2) 論文審査では、論理的思考・説明能力の育成を考慮し、論文審査基準を公表し、審査については公開制で実施する。

(CP7) (3) 看護の現象への知識、看護研究の推進、看護・介護の理論・技術・システム・人材育成に対し、総合的・主体的・自律的に取り組む姿勢を評価する。

ディプロマポリシー（DP）**1 豊かな人間力**

(DP1) (1) 看護高度専門職業人として基本的人権擁護と高い倫理意識を有している。

(DP2) (2) 豊かな学識と高い見識を備え、基礎理論に基づく疾病予防と生活支援方法を開発・整備できる能力を身に付けている。

2 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

(DP3) (1) 科学的根拠に基づき、看護の現象、実践技術およびシステム上の課題を明らかにし解決するために、看護の研究を推進できる能力を獲得している。

(DP4) (2) 現代社会が直面する看護・介護に関する諸課題についての教育・研究・実践活動を自律して展開できる能力を獲得している。

(DP5) (3) 自身が取り組むべき課題を基に、新たな研究領域にも挑戦できる能力を身に付けている。

3 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

(DP6) (1) 多様なサービス提供の場であって、国内外を問わず学際的チームの協働・連携に寄与できる。

(DP7) (2) 幅広い視野をもち、多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力を有している。

社会文化創造研究科（社会文化システムコース）

①教育課程の編成・実施方針(CP)											①学位授与方針(DP)											
山形大学大学院社会文化創造研究科の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、社会文化システムコースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。 1)教育課程の編成・実施等 (1) 高度専門職業人が有すべき基礎・基盤となる科目や研究テーマに合わせて必要な科目が履修できるカリキュラムを編成する。 (2) 分野にかかわらず共通に求められる基盤的な素養、幅広い知識、多角的な視点・思考法を身に付けるための講義を配置する。 2)教育方法 (1) 分野間で異なる論理や方法論を理解させるため、他分野の学生との協働を促す。 (2) 学位論文の作成に際しては、複数の指導教員が一体となり、問題意識・分析手法・結論までの論理性等を確認・指導する。 3)教育評価 (1) 講義科目では、到達度を確認出来る明確な成績評価基準に基づく評価を行う。 (2) 修士課程の学位基準に基づき、学位論文あるいは修士課題研究を評価する。											山形大学大学院社会文化創造研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、社会文化システムコースでは、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。 1)豊かな人間力 (1) 社会の国際化に対応すべく、専門領域において他者と積極的に意見を交換することができる多彩なコミュニケーション能力を身に付けている。 (2) 自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える専門的職業人としての高い意識を有している。 2)深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野 (1) 社会科学及び人文科学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と考え方を習得し、それらを現代社会が抱える多様な諸課題の解決のために活用・応用していく能力を有している。 (2) 自らの主張を広く展開するためには、関連領域との連携や巨視・微視的視点を使い分ける複眼的な考察が必要であることを十分に理解している。 3)多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力 (1) 人間生活の多様性を時空間に囚われることなく把握したうえで、社会科学及び人文科学の専門的視点から今日の課題を抽出することができる能力を身に付けている。 (2) 人間の活動によって育まれた文化の多様性を十分に理解し、それらの維持・醸成のために自ら行動しようとする意識を有している。											
②授業科目	③開講単位	令和3年度履修者数	時間割コード	授業形式	④開講学年	⑥教育課程の編成・実施方針(CP)						⑦授業の目的	⑧授業の到達目標	⑨学位授与方針(DP)						⑩チェック欄		
						1)	1)	2)	2)	3)	3)			1)	1)	2)	2)	3)	3)	到達目標の明確性	授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか
						(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)			(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)			
英語学特論	2			講義	1	○					◎	英語の諸構文を統語論の手法によって分析することを通じて、人間の言語能力の解明に必要な専門的概念・分析手法を習得することを目的とする。	統語論の諸概念と分析手法の習得を通して、言語現象を文法をよりどころにして分析し説明することができる。 本研究分野における問題設定のありか、および、			◎ R		○ R	△ R			
英語語法論特論	2			講義	1	○					◎	英語の語彙的意味と構文表現の意味解釈に関わる代表的な文法理論について、関連分野の文献の読解に基づき、基本的な思考法と分析手法を学ぶこと	英語の語彙および構文の意味解釈に関わる文法のしくみについて考察する。とくに動詞とそれが使用される構文表現における言語学的な分析について			◎ R		○ R	△ R			
英語音声学特論	2			講義	1	○					◎	英語音声学の中心的課題である母音や子音や韻律特徴について音響、調音、知覚の観点からの総合的解釈を試みる。音声言語の実験や調査について	英語音声学の基本概念と、それらの現象を観察し分析する手法や、人間の意思伝達や社会形成における音声に関する諸問題について知る事が出来る			◎ R		○ R	△ R			
生成文法論特論	2			講義	1	○					◎	生成文法の方法論について理解を深め、近年の研究動向を把握することを目的とする。	(1)生成文法の方法論を理解し、現象の分析ができる。(2)生成文法研究の現状を理解し、自らの研究をその中に位置付けることができる。			◎ R		○ R	△ R			
歴史言語学特論	2			講義	1	○					◎	歴史言語学に関する基本的な知識を英語文献の研究を通じて勉強することで、それに関する課題や	歴史言語学の基本、特に様々な変化プロセスや言語接触の社会への影響を理解する。			◎ R		○ R	△ R			

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。

- ◎ DP達成のために、特に重要な事項
- DP達成のために、重要な事項
- △ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。

- I Introduced = 導入
- R Reinforced/Practiced = 発展/強化
- M Mastered = 熟達
- A Assessed = 測定/把握